

2018年度 学校評価報告書

(自己評価・授業評価・学校関係者評価及び次年度方針)

2019年3月31日

大阪信愛学院中学校・高等学校
学校評価委員会

はじめに

学校教育法及び同施行規則に基づき、本校において学校評価を実施するため、2018年12月に保護者および教員に「学校自己評価アンケート」、生徒に「授業評価アンケート」を配布し、2019年2月に結果を集約しました。同時に中学校高等学校の保護者の代表役員、卒業生の代表役員、卒業生保護者の代表役員に学校関係者評価を実施していただきました。この文書は学校評価委員会が分析したものです。

本校の設立母体は、フランスに本部のある「ショファイユの幼きイエズス修道会」です。系列校は日本に4校ありますが、系列校の中で保育園、幼稚園、小学校、中学校、高等学校そして短期大学を併設しているのは本校のみです。系列校の基本であるキリスト教的価値観に基づき、自分と他者を大切に、かけがえのない生命の尊さを体現し、隣人愛ゆえの国際教育、与えられたタレントを磨くための女性のリーダーシップを目指しています。

今回の学校評価は本校の現状及び課題を再認識する契機として位置づけ、伝統の上にたった変革を成し遂げるための有効な検証の手段としてとらえています。

1. 建学の精神

「キリストに信頼し愛の実践に生きる」

1877年、フランスからやってきた4人のシスターたちは町の中に棄てられた捨て子たちを養育することから始めました。それは「隣人を自分のように愛しなさい」というキリスト教的精神です。弱い者、困っている者、傷ついている者に手を差し伸べるという行為を実践したのです。

1884年、大阪の川口居留地に最初の女学校が創立されました。信愛に学ぶ生徒たちが信愛の精神を体得し社会に貢献できる人間になること、愛と奉仕の精神を持った人間の育成を目指します。

2. 教育目標

(1) キリスト教的価値観に基づく教育

人間はかけがえのない存在として造られ、自分の命と他者の命の尊厳を意識し、また与えられたタレントを最大限に磨き、誇りを持って自分の人生を築くよう促す。日々の朝礼のお祈り、黙想、聖書の授業、また地域社会との連携と奉仕、募金等を通して困っている人、弱い立場に置かれている人を意識することを学ぶ。

(2) 一人ひとりが輝く教育

生徒が個性と主体性を尊重し、自分で考え、判断し、行動する力を育てすべての人に対して差別や偏見を持つことなく公平、公正にして、正義とゆるしの実践的態度を養う。

(3) 能力の開発を目指す教育

絶えず自分を越えて勉学し、知性の向上はもちろん、直観力、想像力、創造的思考力を伸長させ、芸術的感性を高めるとともに表現力を身につける。

(4) 自己形成を促す教育

基本的な生活習慣を身につけ時と場合に応じて臨機応変な対応ができるよう国際的に共通するマナーを身につけ、探求心、開拓心、挑戦することのできる心を養い生涯学習への意欲を高める。

(5) 社会貢献への態度を育成する教育

学校生活の中でよい共同体を築いていく上での協力の精神と日本のことを学びつつ、グローバルな視点で世界に目を向け、民族、国籍、宗教を越えて、弱い人、困難な状況にある人への共感と各自の使命に目覚め、奉仕への開花していくよう促す。

3. 2018年度（平成30年度）学校目標

建学の精神の具現化を目指し、本校の教育目標の達成を図るために、次の内容を重点目標に掲げて、教育活動に取り組みました。

- (1) 信愛教育の根幹である、キリスト教的価値観を学び生かす
- (2) かけがえのない存在として全人的な開発を目指す
- (3) 「次世代女性リーダーの育成」をとおして、主体的に役割を担い、確かな学力の習得を目指す
- (4) 信愛教育にのっとり、グローバルな精神と確かな英語力を培い社会と世界に貢献する力を養う
- (5) 「信愛で学ぶ18歳の姿」を実現できるよう日々の学校生活の中で小さなことから始める

2018年度（平成30年度）学校目標と具体的方策及び評価指標

	評価項目	具体的方策	方策の評価指標
(1)	信愛教育の根幹である、キリスト教的価値観を学び生きる	① 聖書を学ぶ時間と宗教行事を通してキリスト教的価値観を学ぶ	・自分を含めた人を大切にする教育に対する自己評価が80%以上
		② 朝礼終礼のお祈りと講話を通して心を養う	・思いやりの心を育む教育に対する自己評価が80%以上
		③ 毎月の献金（全学年）、共同募金参加（高1）、東北被災地へのボランティア活動（希望者）の継続	・ボランティア精神を育む教育に対する自己評価が80%以上
(2)	かけがえのない存在として全人的な開発を目指す	① 自己に誇りを持つための役割を担う	・クラスでの役割を持っている人を90%以上
		② 部活を通して身体を鍛え、技術を磨く	・部活に入っている人を70%以上
		③ 5分間の黙想や宗教の授業、宗教行事等を通して自己を見つける時間を持つ	・5分間の黙想や宗教行事等は生徒のみならず全教員で取り組む
(3)	「次世代女性リーダー」の育成を通して、主体的に役割を担い、確かな学力の習得を目指す	① 学年朝礼や行事を通じて、主体的に学び、自分の考えを発表する能力を身につける	・学年朝礼を輪番で司会し、集団の課題に気づき、発言をし、集団が目標に向かうよう行動する ・探究学習の発表を高1・高2で実施し、中学では弁論大会を実施する ・生徒会活動や学校行事などに関する自己評価を80%以上
		② 授業を基本に据え、基礎学力の向上を図る。併せて家庭学習による主体的な学びの習慣を身につける	・中学：漢検で中1は5級100%、中2は4級70%、中3は3級70%の取得を目指す ・高校：スタディサポートGTZ（学力・学習習慣の到達度）B2以上の割合を5ポイント上昇させる ・授業評価（熱意が感じられる、学力が付く、授業に満足している）の項目で70%以上
		③ キャリア教育を通して将来の仕事や学問に対する興味関心の喚起を図り、進路選択を考える機会を提供していく	・進路説明会や進路プログラムに関する自己評価70%以上
(4)	信愛教育にのっとり、グローバルな精神と確かな英語力を培い社会と世界に貢献する力を養う	① 海外修学旅行を通して、国際理解を促進するとともに国際社会への関心を深める	・国際情勢の影響で中断している海外修学旅行を復活させる

(4)	信愛教育にのっとり、グローバルな精神と確かな英語力を培い社会と世界に貢献する力を養う	② 海外提携校との交流を促進することによって国際人としての素養が身につくようにする	<ul style="list-style-type: none"> ・姉妹校への語学研修の参加並びに姉妹校からの研修の際のホームステイ受入れを推進する ・国際教育に関する自己評価が 80%以上
		③ コミュニケーションツールとしての英語教育に力を入れ、読む、聞く話す能力を授業や課外の活動によって教養が広がるようにする	<ul style="list-style-type: none"> ・中学：英検で中 1 は 4 級、中 2 は 3 級、中 3 文理 I は準 2 級、文理 II は 3 級の取得を目指す ・高校：GTEC のスコア平均を各学年 40 以上上昇させる
(5)	「信愛で学ぶ 18 歳の姿」を実現できるよう日々の学校生活の中で小さなことから始める	① 挨拶を実践する習慣を身につける	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶運動の実施
		② 責任を果たすことは人格形成にとって大切なことであると自覚し、学習、清掃など日常の中で実践する	<ul style="list-style-type: none"> ・信愛学院の教育に関する自己評価が 80%以上
		③ 世界や日本の出来事に関心を持つようにする	<ul style="list-style-type: none"> ・社会科、宗教科の授業や朝礼講話の中で情報を提供し解説する

4. 2018年度（平成30年度）学校評価アンケートと結果分析

昨年度の学校評価のP D C Aの中で「教員対象のアンケートに加えて、生徒・保護者対象の アンケートを実施する」としました。そこで、今年度は教員・保護者共通のものとして23項目を新たに作成し、「学校評価アンケート」を実施しました。生徒には従来の「授業評価アンケート」を実施しました。

結果と分析は以下の通りです。

2018年度学校自己評価

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

評価項目			A	B	C	D	2018年度 (A+B)		
A: 信愛教育について	1	カトリック学校として、自分を含めた人を大切にする教育が行われている	中学校保護者	45.2%	43.0%	6.5%	5.4%	88.2%	
			高校保護者	52.2%	39.9%	7.2%	0.7%	92.1%	
			教員	39.2%	58.8%	2.0%	0.0%	98.0%	
	2	女子校として、思いやりの心を育む教育が行われている	中学校保護者	35.5%	46.2%	12.9%	5.4%	81.7%	
			高校保護者	44.5%	45.2%	9.2%	1.0%	89.7%	
			教員	25.5%	70.6%	3.9%	0.0%	96.1%	
	3	学内外の活動を通して、ボランティア精神を育む教育が行われている	中学校保護者	22.6%	52.7%	20.4%	4.3%	75.3%	
			高校保護者	44.9%	47.6%	7.2%	0.3%	92.5%	
			教員	39.2%	54.9%	5.9%	0.0%	94.1%	
	B: 教科指導について	4	必要な学力が定着、向上する授業が行われている	中学校保護者	18.3%	46.2%	26.9%	8.6%	64.5%
				高校保護者	21.9%	52.7%	22.6%	2.7%	74.7%
				教員	21.6%	68.6%	9.8%	0.0%	90.2%
5		必要な学力が定着、向上する適切なコースやカリキュラムが設定されている	中学校保護者	20.4%	44.1%	26.9%	8.6%	64.5%	
			高校保護者	25.4%	51.5%	19.9%	3.1%	77.0%	
			教員	25.5%	70.6%	3.9%	0.0%	96.1%	













A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

評価項目			A	B	C	D	2018年度 (A+B)	
B:教科指導について	6	放課後や長期休業中に、講座や補習が必要に応じて行われている	中学校保護者	23.7%	48.4%	22.6%	5.4%	72.0%
			高校保護者	31.6%	45.4%	20.3%	2.7%	77.0%
			教員	41.2%	41.2%	17.6%	0.0%	82.4%
			中学校保護者	17.2%	58.1%	18.3%	6.5%	75.3%
			高校保護者	25.5%	55.2%	17.2%	2.1%	80.7%
			教員	31.4%	56.9%	9.8%	2.0%	88.2%
	8	学校として必要な国際教育が行われている	中学校保護者	18.3%	60.2%	17.2%	4.3%	78.5%
			高校保護者	23.7%	56.4%	19.2%	0.7%	80.1%
			教員	21.6%	66.7%	11.8%	0.0%	88.2%
			中学校保護者	31.5%	53.3%	12.0%	3.3%	84.8%
			高校保護者	52.1%	40.7%	5.9%	1.4%	92.8%
			教員	62.7%	37.3%	0.0%	0.0%	100.0%
C:教科外活動について	10	学校行事が充実している	中学校保護者	33.3%	49.5%	14.0%	3.2%	82.8%
			高校保護者	40.5%	47.1%	11.3%	1.0%	87.6%
			教員	54.9%	37.3%	5.9%	2.0%	92.2%
			中学校保護者	18.3%	60.2%	17.2%	4.3%	78.5%
			高校保護者	23.7%	56.4%	19.2%	0.7%	80.1%
			教員	21.6%	66.7%	11.8%	0.0%	88.2%

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

評価項目			A	B	C	D	2018年度 (A+B)	
D:進路指導、生徒指導について	11	生徒の希望に沿った進路指導が行われている	中学校 保護者	25.3%	49.5%	20.9%	4.4%	74.7%
			高校 保護者	32.2%	49.1%	16.3%	2.4%	81.3%
			教員	41.2%	54.9%	3.9%	0.0%	96.1%
	12	進路説明会や進路プログラム(大学体験・職業体験等を含む)が、生徒が将来を考えることのできる内容になっている	中学校 保護者	20.4%	54.8%	19.4%	5.4%	75.3%
			高校 保護者	32.4%	52.1%	13.8%	1.7%	84.5%
			教員	43.1%	51.0%	5.9%	0.0%	94.1%
	13	教員の、生徒指導や生徒への関わりが適切に行われている	中学校 保護者	22.8%	45.7%	26.1%	5.4%	68.5%
			高校 保護者	34.7%	49.8%	12.7%	2.7%	84.5%
			教員	31.4%	64.7%	3.9%	0.0%	96.1%
	14	校内におけるいじめの早期発見、防止が適切に行われている	中学校 保護者	17.2%	48.4%	22.6%	11.8%	65.6%
			高校 保護者	26.8%	52.6%	16.4%	4.2%	79.4%
			教員	23.5%	66.7%	9.8%	0.0%	90.2%
	15	生徒一人ひとりに対し、必要に応じて適切な支援が行われている	中学校 保護者	23.7%	39.8%	34.4%	2.2%	63.4%
			高校 保護者	30.2%	52.2%	13.7%	3.8%	82.5%
			教員	27.5%	70.6%	2.0%	0.0%	98.0%

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

評価項目			A	B	C	D	2018年度 (A+B)	
E:保護者と学校との連携について	16	各種行事の案内が適宜行われている	中学校 保護者	47.3%	44.1%	6.5%	2.2%	91.4%
								
			高校 保護者	51.2%	45.7%	3.1%	0.0%	96.9%
								
			教員	47.1%	45.1%	7.8%	0.0%	92.2%
								
	17	学校のホームページが充実している	中学校 保護者	23.7%	48.4%	24.7%	3.2%	72.0%
								
			高校 保護者	26.6%	54.5%	16.6%	2.4%	81.0%
								
			教員	15.7%	49.0%	31.4%	3.9%	64.7%
								
18	Classiを使用した連絡が、適切に運用されている	中学校 保護者	44.1%	44.1%	9.7%	2.2%	88.2%	
								
		高校 保護者	52.9%	38.5%	7.6%	1.0%	91.4%	
								
		教員	47.1%	47.1%	5.9%	0.0%	94.1%	
								
19	保護者説明会・個人懇談の内容、回数が適切である	中学校 保護者	32.3%	57.0%	8.6%	2.2%	89.2%	
								
		高校 保護者	43.6%	48.5%	7.9%	0.0%	92.1%	
								
		教員	29.4%	56.9%	11.8%	2.0%	86.3%	
								

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

評価項目			A	B	C	D	2018年度 (A+B)	
F:施設設備について、全般	20	学校内の施設や設備が適切に運用されている	中学校 保護者	37.0%	56.5%	4.3%	2.2%	93.5%
			高校 保護者	37.8%	52.9%	6.2%	3.1%	90.7%
			教員	25.5%	49.0%	25.5%	0.0%	74.5%
			中学校 保護者	28.3%	57.6%	13.0%	1.1%	85.9%
			高校 保護者	29.3%	54.4%	15.3%	1.0%	83.6%
			教員	13.7%	60.8%	23.5%	2.0%	74.5%
	22	電話や受付での対応が適切である	中学校 保護者	50.0%	45.7%	2.2%	2.2%	95.7%
			高校 保護者	55.0%	37.7%	5.5%	1.7%	92.7%
			教員	6.0%	58.0%	34.0%	2.0%	64.0%
			中学校 保護者	33.3%	44.1%	17.2%	5.4%	77.4%
			高校 保護者	44.6%	44.9%	9.4%	1.0%	89.5%
			教員	14.3%	67.3%	14.3%	4.1%	81.6%
23	信愛学院の教育に満足している	中学校 保護者	33.3%	44.1%	17.2%	5.4%	77.4%	
		高校 保護者	44.6%	44.9%	9.4%	1.0%	89.5%	
		教員	14.3%	67.3%	14.3%	4.1%	81.6%	

2018年度アンケートの項目別分析

* A よくあてはまる・B ややあてはまる の合計が 80%に満たない項目につき、原因を分析し、報告書の文言を論議しました。

A 信愛教育について

< 3 > ボランティア精神

- 教員としては日常の指導に自負があるが、保護者はボランティア系のイベントの有無で判断するしかない。高校は全生徒が赤い羽根共同募金の街頭活動に参加している為認知度が高いが、中学にはそうした行事が少ない。中学生向けの具体的なボランティア活動の拡充が必要である。
- お米の一握り運動や献金は、従来から生徒に口頭で呼び掛けているが、保護者に伝わっていない。クラッシーの積極活用で、学内の活動を保護者に可視化することも有効であろう。

B 教科指導について

< 4 > ・ < 5 > 授業力・コースカリキュラム

- 偏差値 50 を大きく下回る生徒の学力を上げる工夫は不可欠であるが、その生徒を偏差値 45 に上げる程度では保護者は納得しない。「授業が分からない」生徒の興味・関心を高め、「分かる」と実感させるためには、教員の授業力を向上させる不断努力が必要である。

< 6 > 放課後・長期休業中の講座や補習

- 中学の居残り指導は充実している。夏休み中の呼び出しも盛んだが、上位層への手当ては不足していると感じる。
- 高校は希望者で夏期講座や放課後補習を実施している。部活動との兼ね合いが難しいので工夫したい。

< 7 > 国際教育

- グローバルコモンズを新たに開設した。より前進・向上させたい。

< 8 > 情報教育

- 新たに導入した I C T の活用により、一層の前進・向上を目指したい。

D 進路指導・生徒指導

< 11 > ・ < 12 > 進路指導・進路説明会

- 中学校の保護者・生徒には進路指導の実感がないのではないかと感じた。社会人講演会等、広く職業について啓発することで進路選択と勉学のモチベーション作りにつながる企画を精力的に企画・実施しているが、保護者に実態や意義が十分に伝わっていない。
- 今後は職業体験に代わる企画を模索したい。中学は修学旅行で北大を見学し、高評価であったので、中学生対象の大学体験も導入予定である。

< 13 > ・ < 14 > 生徒への関わり・いじめ対策

- 水面下で起こる生徒間トラブルを教員がどれほど把握しているかについて、懐疑的な保護者が少なくないことと思われる。特に中学には 2 人担任制を導入するなど、手厚い指導が必要と思われる。

<15> 支援

- 学習障害・発達障害等に関する項目と捉えた教員は、毎週行われている「教育相談会議」の充実感から高評価であったが、保護者は違う捉え方だったと感じた。不登校生徒への対応が見えないことなどが反映したと思われる。公立と違い加配がないにも関わらず、期待値は「私学だから」と寧ろ高く、そのギャップも低評価につながったと考えられる。

E 保護者と学校の連携

<17> ホームページ

- スマホ対応への移行やクラッシーの積極活用で改善・充実が見込まれる。

F 施設設備・全般

<23> 信愛教育への満足度

- 学力向上や生活指導面など、教員の指導力を高め、保護者の満足度を向上させる努力が必要である。

5. 2018年度（平成30年度）生徒授業評価アンケートの報告

アンケートの評価観点は10項目で、生徒が受講している全教科・全科目を対象に実施しております。生徒たちの集中力を考慮して、項目が多くなりすぎないように心がけました。また、アンケートの結果は、全教員に配布し、以後の教育活動に活かすよう努めております。

授業評価アンケート 結果 <2018年12月実施分>

全体

	A	B	C	D	2018年度 A+B	2018中間 A+B	2017年度 A+B	2017中間 A+B
授業の開始・終了の時間が守られている	74.8%	17.2%	4.6%	3.3%	92.0%	92.6%	91.5%	92.4%
先生の熱意が感じられる	62.2%	28.4%	6.1%	3.3%	90.6%	90.8%	89.2%	90.1%
話し方がハッキリしてわかりやすい	61.8%	25.5%	8.6%	4.1%	87.3%	88.2%	85.7%	86.3%
板書がハッキリしてわかりやすい	57.6%	26.7%	10.1%	5.6%	84.3%	84.4%	82.9%	83.6%
その日の授業で何が重要なかわかる	53.0%	30.3%	11.6%	5.1%	83.3%	83.6%	81.2%	82.0%
この先生の授業を受けると力がつく	51.2%	32.1%	11.2%	5.5%	83.3%	83.4%	81.5%	81.9%
授業に集中できる	55.0%	31.0%	9.6%	4.4%	86.0%	86.7%	84.8%	84.0%
この教科・科目の予習・復習の仕方がわかる	46.2%	29.7%	14.9%	9.3%	75.9%	72.8%	71.3%	71.2%
よくほめられる、励まされる。 また、適切な注意指導もある。	52.6%	30.7%	11.0%	5.7%	83.3%	82.3%	80.2%	79.9%
この先生の指導に満足している	58.7%	28.7%	8.1%	4.5%	87.4%	88.1%	86.3%	86.3%

授業評価アンケート 結果 <2018年12月実施分>

中学校

	A	B	C	D	2018年度 A+B	2018中間 A+B	2017年度 A+B	2017中間 A+B
授業の開始・終了の時間が守られている	70.1%	18.2%	5.8%	5.9%	88.3%	88.2%	92.6%	93.3%
先生の熱意が感じられる	54.9%	28.2%	9.9%	7.1%	83.1%	86.3%	87.7%	88.0%
話し方がハッキリしてわかりやすい	57.1%	23.3%	11.8%	7.8%	80.4%	84.5%	87.3%	87.7%
板書がハッキリしてわかりやすい	52.2%	26.1%	12.1%	9.6%	78.3%	81.2%	84.2%	85.1%
その日の授業で何が重要なかわかる	41.3%	29.5%	18.9%	10.2%	70.9%	76.3%	77.8%	80.6%
この先生の授業を受けると力がつく	40.3%	32.0%	16.5%	11.2%	72.3%	76.3%	79.2%	79.5%
授業に集中できる	42.4%	32.9%	15.3%	9.4%	75.3%	77.8%	83.0%	82.0%
この教科・科目の予習・復習の仕方がわかる	32.8%	29.1%	21.4%	16.7%	62.0%	60.2%	66.8%	68.6%
よくほめられる、励まされる。 また、適切な注意指導もある。	43.9%	29.6%	15.6%	10.8%	73.6%	73.6%	75.7%	74.3%
この先生の指導に満足している	50.8%	28.2%	12.2%	8.8%	79.0%	81.9%	84.8%	85.0%

授業評価アンケート 結果 <2018年12月実施分>

高校

	A	B	C	D	2018年度 A+B	2018中間 A+B	2017年度 A+B	2017中間 A+B
授業の開始・終了の時間が守られている	76.2%	16.9%	4.3%	2.6%	93.1%	93.9%	91.0%	92.0%
先生の熱意が感じられる	64.3%	28.4%	5.1%	2.2%	92.7%	92.1%	89.8%	90.9%
話し方がハッキリしてわかりやすい	63.2%	26.2%	7.6%	3.0%	89.3%	89.3%	85.1%	85.8%
板書がハッキリしてわかりやすい	59.1%	26.9%	9.6%	4.5%	85.9%	85.3%	82.3%	83.1%
その日の授業で何が重要なかわかる	56.3%	30.5%	9.6%	3.6%	86.8%	85.7%	82.6%	82.5%
この先生の授業を受けると力がつく	54.3%	32.1%	9.7%	3.8%	86.5%	85.4%	82.5%	82.9%
授業に集中できる	58.6%	30.4%	8.0%	3.0%	89.0%	89.2%	85.5%	84.9%
この教科・科目の予習・復習の仕方がわかる	49.9%	29.9%	13.0%	7.2%	79.7%	76.3%	73.2%	72.2%
よくほめられる、励まされる。 また、適切な注意指導もある。	55.2%	30.9%	9.7%	4.2%	86.1%	84.8%	82.0%	82.2%
この先生の指導に満足している	61.0%	28.8%	6.9%	3.2%	89.8%	89.8%	87.0%	86.8%

6. 2018年度（平成30年度） 自己評価及び次年度の課題と改善策

【自己評価】 A：達成できた B：概ね達成できた C：やや課題を残した D：課題を残した

評価項目（1） 信愛教育の根幹である、キリスト教的価値観を学び生きる	自己評価
<p>具体的方策① 聖書を学ぶ時間と宗教行事を通してキリスト教的価値観を学ぶ <活動実績と自己評価> 全学年全クラスにおいて週1時間の宗教の授業があり、聖書に触れている。1年を通して4回のミサを実施した。自己評価アンケートにおいて、中学校保護者（以下「中保」と略記）88.2%、高等学校保護者（以下「高保」と略記）92.1%、教員98.0%の肯定的な評価であった。 <次年度の課題と改善策> 全体的に評価は高いが、保護者の評価を教員の水準にまで高めていくように努めていく。</p>	A
<p>具体的方策② 朝礼終礼のお祈りと講話を通して心を養う <活動実績と自己評価> 毎朝の職員朝礼は聖書朗読から始まる。全校生徒の朝礼終礼においてお祈りと聖歌を必ず実施している。また、毎週月・水・金の朝礼では教員の講話を実施した。自己評価の結果は、中保81.7%、高保89.7%、教員96.1%の肯定的な評価であった。 <次年度の課題と改善策> 本校としては最も大切にしたい項目でもあるので、ここでも保護者の評価を教員の水準にまで高めていくように努めていく。</p>	自己評価 A
<p>具体的方策③ 毎月の献金（全学年）、共同募金参加（高1）、東北被災地へのボランティア活動（希望者）の継続 <活動実績と自己評価> 献金は毎月目的を決めて実施した。高1は全員赤い羽根共同募金に参加した。東北ボランティアでは希望者が一学期終了時に現地で活動し、二学期の始業式で全校生徒に報告した。生徒会がヘアドネーションを呼び掛け、実施した。Sクラブやハンドベル部などの部活動においても、釜が崎炊出しのお手伝いや募金活動、チャリティーコンサート等を実施した。中学校全体での活動が献金のみになっているため、学校評価は中保75.3%であり、目標（80%以上）を下回った。高保は92.5%、教員は94.1%であった。 <次年度の課題と改善策> 次年度も同じような形で活動するものに加えて、中学生が自発的にできるボランティア活動を模索したい。</p>	自己評価 B

<p>評価項目（２） かけがえのない存在として全人的な開発を目指す</p>	<p>自己評価</p>
<p>具体的方策① 自己に誇りを持つための役割を担う <活動実績と自己評価> クラスでの委員の数は 16 名である。残りの生徒は必ず何らかの係に属してクラス運営に貢献するよう指導した。学級委員を中心に良い雰囲気クラスをつくらうとする動きが見えたクラスもあった。 <次年度の課題と改善策> 数値目標の達成だけではなく、自主的・積極的に行動する生徒の育成を目指したい。</p>	<p>B</p>
<p>具体的方策② 部活を通して身体を鍛え、技術を磨く <活動実績と自己評価> 部活に入部している生徒の割合は % である。「部活動や生徒会活動が活発に行われている」という学校評価では、中保 84.8%、高保 92.8%、教員 100% が肯定的な評価であった。 <次年度の課題と改善策> 部活動とひとくくりでいっても、それぞれ個性的な活動をしている。より豊かなものになるよう研鑽を積んでいきたい。</p>	<p>自己評価 A</p>
<p>具体的方策③ 5 分間の黙想や宗教の授業、宗教行事等を通して自己を見つめる時間を持つ <活動実績と自己評価> 毎日、朝礼前と 5 時限目前に 5 分間の沈黙の時間を実施した。宗教の授業は中 1 から高 3 まですべての学年で週 1 時間の授業がある。年間に 4 回の宗教行事の中で、クリスマスブローを初めて外部に公開した。朝昼の沈黙の時間は導入して 4 年目である。年々成果が上がって来ていると感じる。 <次年度の課題と改善策> 自己を見つめる深い沈黙になるよう努力を続けたい。12 月のクリスマスブローは、外部に公開することによって様々な反省点があった。改善して充実させていきたい。</p>	<p>自己評価 B</p>

<p>評価項目 (3) 「次世代女性リーダー」の育成を通して、主体的に役割を担い、確かな学力の習得を目指す</p>	<p>自己評価</p>
<p>具体的方策① 学年朝礼や行事を通じて、主体的に学び、自分の考えを発表する能力を身につける <活動実績と自己評価> 月1回、高校は学年朝礼、中学は全体朝礼を実施した。司会を輪番で回すなど、自分たちで学年朝礼を運営することで集団の課題に気づき、発言をし、集団が目標に向かうよう行動した。探究学習の発表を高1・高2で実施し、中学では弁論大会を実施した。学校行事に関する自己評価は、中保 82.8%、高保 87.6%、教員 92.2%が肯定的な評価であった。 <次年度の課題と改善策> 学年朝礼や全体朝礼の司会進行・運営を生徒に任せたのは、初めての取組で戸惑うときもあったが、各学年の特色を感じるようになっていった。来年度はさらに充実させていきたい。</p>	<p>B</p>
<p>具体的方策② 授業を基本に据え、基礎学力の向上を図る。併せて家庭学習による主体的な学びの習慣を身につける <活動実績と自己評価> 今年度、高校の進学コースを2つに分割した。従来のレベルを「進学ソレイユコース」とし、新たに中学の学び直しを一部加えた「進学エトワールコース」を設け、基礎学力の充実に努めた。漢検中1での5級の取得率が90.2%、中2での4級の取得率が76%、中3での3級の取得率50.9%になった。スタサポでは、B2以上が高1の1回目で33%、2回目で27%、高2の1回目で28%であった。授業評価アンケートでは「熱意が感じられる」は89.2%、「学力がつく」は81.5%、「授業に満足している」は86.3%であった。 特にエトワールコースには、インターネット教材を導入したので、家庭学習まで充実させることができたと感じたが、他の学年・コースの保護者には学力向上の良い評価はいただけなかった。「必要な学力が定着、向上する授業が行われている」中保 64.5%、高保 74.7%、教員 90.2%「適切なコースやカリキュラムが設定されている」中保 64.5%、高保 77.0%、教員 96.1%が肯定的な評価であった。保護者と教員の評価の違いを重く受け止める必要がある。 <次年度の課題と改善策> 漢検において中2は目標に達成できたが、中1・3は達成できなかった。その要因を探り、来年度向上させたい。スタサポにおいて残念ながら逆に下がってしまった。その結果が、授業評価アンケートにも反映されている。コースや教科ごとに分析し、来年度改善したい。</p>	<p>自己評価 <p>C</p></p>
<p>具体的方策③ キャリア教育を通して将来の仕事や学問に対する興味関心の喚起を図り、進路選択を考える機会を提供していく <活動実績と自己評価> 中学では職業人の講演会や進路説明会を行った。高1では大学見学ツアー・大学体験の中で、大学や学部をそれぞれ自分たちで選び、進路に向けて考えさせた。キャリア教育の推進が「将来を考えることの出来る内容になっている」という自己評価は中保 75.3%、高保 84.5%、教員 96.1%が肯定的な評価であった。 <次年度の課題と改善策> 教員が感じるほど生徒・保護者の満足度は得られていない。特に中学生に自分の将来のこととして考えることを浸透させたい。</p>	<p>自己評価 <p>B</p></p>

<p>評価項目（４） 信愛教育にのっとり、グローバルな精神と確かな英語力を培い社会と世界に貢献する力を養う</p>	<p>自己評価</p>
<p>具体的方策① 海外修学旅行を通して、国際理解を促進するとともに国際社会への関心を深める <活動実績と自己評価> 高２は国際情勢の影響で中断していた海外修学旅行を復活させた。ただし、ハワイは初めてであったので、事前学習を含め内容を深めた。ハワイ島キラウエア火山の噴火の影響で一部変更したが充実した修学旅行になった。 <次年度の課題と改善策> 今回の反省点を具体的にあげて、より良い修学旅行になるよう改善していきたい。</p>	<p>A</p>
<p>具体的方策② 海外提携校との交流を促進することによって国際人としての素養が身につくようにする <活動実績と自己評価> 姉妹校であるオーストラリアのラザホール校へ夏に 人が留学し、秋にはラザホール校から日本に 人を受け入れた。さらに、初めて本校からラザホール校への 3 か月留学をする生徒が 2 名選ばれた。帰国後の報告会で充実した留学であったことを感じた。ラザホール校から本校には 2 人受け入れた。「学校として必要な国際教育が行われている」という自己評価は中保 75.3%、高保 80.7%、教員 88.2%が肯定的な評価であった。中学校では福島県のブリティッシュヒルズへの参加はあったが、オーストラリア語学学校研修の希望者は出なかった。 <次年度の課題と改善策> ホームステイの受け入れも含め、生徒・保護者に国際教育をさらに深めていくよう努力したい。</p>	<p>自己評価 B</p>
<p>具体的方策③ コミュニケーションツールとしての英語教育に力を入れ、読む、聞く話す能力を授業や課外の活動によって教養が広がるようにする <活動実績と自己評価> 中学校では Active English、高校では Practical English の全授業を確保し、授業内で積極的に英語を使っている。英検では中 3 の文理Ⅰでは準 2 級以上が 71%、文理Ⅱは 3 級以上 53%を取得した。高校では GTEC で学年スコア平均の推移は高 2 は+19、高 3 は+57 となり、学年によって評価指標目標の達成度が異なった。 <次年度の課題と改善策> 高校生の英語 4 技能を測る指標が GTEC だけでは不十分なので、英検の全員受験を導入したい。中学生の英検の取得率の向上を目指すため、授業の内外での対策を強化する。GTEC のスコア平均の上昇が学年によってばらつきがあるため、結果だけでなく、スコア上昇を達成した方策を学年を超えて共有し、実行したい。</p>	<p>自己評価 B</p>

<p>評価項目（5） 「信愛で学ぶ18歳の姿」を実現できるよう日々の学校生活の中で小さなことから始める</p>	<p>自己評価</p>
<p>具体的方策① 挨拶を実践する習慣を身に着ける <活動実績と自己評価> 今年度、校長から「信愛で学ぶお嬢様の18歳の姿」が提示された。挨拶は相手の存在を認める大切な礼儀として一日の始まりである登校時の挨拶を大事にしたいと全校生に声をかけた。今までの週番や生徒指導部の教員及び校長による挨拶に加えて、生徒会が挨拶運動を始めた。さらには一部の部活動も自主的に下足室前に立って挨拶運動を行った。「おはようございます」という気持ちの良い声が響くようになった。 <次年度の課題と改善策> 相手の目を見て自発的に挨拶ができる習慣を定着させていきたい。</p>	<p>A</p>
<p>具体的方策② 責任を果たすことは人格形成にとって大切なことであると自覚し、学習、清掃など日常の中で実践する <活動実績と自己評価> 日常の姿として、身だしなみ・言葉づかいを丁寧にする、提出物を期日までに確実に提出する、掃除を自主的に行うなど、日常の基本的なマナーの向上に努めた。目に見えるほどの成果は即時にはない。教員が声をかけることを怠らないよう、常に基本に帰る姿勢が大切であると感じる。「信愛学院の教育に満足している」という自己評価では、中保77.4%、高保89.5%、教員81.6%が肯定的な評価であった。 <次年度の課題と改善策> 言われたこと、体験したことがないマナーや態度の向上は自主的には育たない。教員が自ら示すことで具現化すると自覚し、地道な努力を続けたい。</p>	<p>自己評価 B</p>
<p>具体的方策③ 世界や日本の出来事に関心を持つようにする <活動実績と自己評価> 「グローバルな世界で生きる人としてのマナーとコミュニケーション能力を身につけている」「国籍、言語、宗教を超えて、社会と世界に貢献しようとする意志を持っている」という目標を示し、授業や朝礼講話の中で情報を提供し解説した。 <次年度の課題と改善策> グローバルな視野を持つためには、社会科や宗教科といった一定の教科にとらわれず、教科横断型の指導を展開し工夫する必要がある。</p>	<p>自己評価 B</p>

7. 学校関係者評価

A. 信愛教育について

<3> ボランティア精神

- ・献金について、目的や時期を保護者がわかっていない。教室に掲示するだけでは不十分と考える。

B. 教科指導について

<4>・<5> 授業力・コースカリキュラム

- ・ここは面倒見が良いかを問う項目と考える。高校に比べて中学のポイントが低いのは、少人数で目も行き届いていると考えていて期待値が高いからではないか。

<6> 放課後・長期休業中の講座や補習

- ・中学の成績下位層への補習はよくしていただいている。また、上位層は放っておいても自主的に勉強をするだろうと想像する。問題は中間層である。中間層に対する補習を充実させて、引き上げてほしい。
- ・時代の流れを感じる。親は娘1人のことを考えているが、先生は生徒全員のことを考えないといけない。多様化する親からの要求に応えることは大変だと思う。だが、偏差値が出ないような中学校へは行きたくないという声を聞く。
- ・親は子どものやりたいことと学力を考えて学校を選んでいる。入ったときの偏差値より上げているかが大事。学力や大学実績をしっかり上げてほしい。
- ・勉強も大事だが、人間的教育を期待している。だが、どこの大学へ行けるのかを気にする親が増えたように思う。母親ネットワークですぐに情報が回る。

D. 進路指導・生徒指導

<13>・<14>・<15> 生徒への関わり・いじめ対策・支援

- ・教育相談等、生徒一人一人に対しての情報を共有したり、今後の方針について話あったりしていることを保護者へお知らせした方がよいのではないか。部活顧問等まで共有しているのか分からない。
- ・各学年で配布される「支援カード」への記入が少ないという報告を聞いた。重要事項なので、保護者への周知徹底・アピール等の工夫をしてほしい。

F. 全般

<23> 信愛教育への満足、その他

- ・卒業したら、「信愛で良かった」と言っている。
- ・夏の制服は好評と聞いたが、学院としての統一性に欠けると感じる。
- ・生徒が行きたい、保護者が行かせたいと思う何かがほしい。
- ・学校の名前を知らない方が増えた。宣伝をしっかりしてほしい。
- ・中高生のスクールバスについて、空きがあれば利用できるではなく増便して利用できるようにはできないか。たとえば、布施、谷町六丁目方面である。谷町六丁目は他の私学女子高生をよく見かける。

8. 学校関係者評価を踏まえた次年度方針

2018年度の重点項目は、私学の独自性、キリスト教的価値観を伝え、社会に貢献する態度の育成と自分に誇りを持ち全人的な人格の陶冶を実践すること、生きるために確かな学力の醸成と大阪信愛学院の精神に当初から求めているグローバルな視点で社会と世界に貢献する人物の育成に全力を注ぐことです。今年度はその人物像を「信愛で学ぶお嬢様の18歳の姿」として具体的に示し、目標としました。今回の学校関係者（教育会の役員2名、同窓会の役員2名、後援会の代表者2名、合計6名）にいただいた評価やご意見・ご提案を真摯に受け止め検討し、今後の教育活動に生かしていきます。

(1) 学校全体の印象や総合満足について

①本校に入学して卒業していく高3の生徒に対して、修養会で一人ひとりに書いてもらおうと、ほとんどの生徒が信愛に入学してよかったと回答しており、学校生活全体に対する満足度は高い水準にあると考えられます。しかし、保護者に教員と同じ項目のアンケートを実施した結果、保護者の満足度が低い部分があることが分かりました。しかも、その項目に関して教員の評価はそこまで低くはなかったのです。これは非常に重大な乖離であると認識いたしました。この結果を真摯に受け止め、来年度、まずは教員の意識・指導力を改善していくことに取り組んでいきます。

②信愛生は概ね思いやりの精神や奉仕の精神があるとの評価を受けていますが、信愛の精神である「隣人愛」と「公共心」の質を高めるために指導方法や諦めない心を引き続き心がけていきます。

(2) 確かな学力の醸成について

①入学してきたときよりも学力を伸ばすことは、本校の取り組むべき重要な課題ではありますが、その点については保護者の方々から厳しい指摘を受けています。学習意欲、学習に対する姿勢や学習の目的について、主体的に考えて勉学に勤しむように支援していきます。

②授業アンケートの結果、「この先生の指導に満足している」では、中学79.0%、高校89.8%でした。授業内容及びその方法を改善するため、進路指導との連携を図り、将来を見据えた学習指導の充実を図って行きます。

(3) 進路指導について

①本校に入学してくる生徒と保護者は指定校に対して強い関心を抱いており高校3年生の約50%が進学先を早く決めてしまうことによる弊害があるのではないかというご意見でした。国公立や一般入試を目指す生徒のモチベーション維持に力を注ぎます。

②キャリア教育については6カ年間の計画を立てて準備していますが、進路指導と担任の教師たちへの周知徹底できるように検討していきます。

9. 2019年度の教育改善PDCAサイクルのイメージ

2019年度（平成31年度）教育改善PDCAサイクルのイメージ

P

- 1 目指す教師像の実現
- 2 教育コンセプトの実現
- 3 ICTの活用充実



D

- 1 教育力向上プロジェクトにより教員の力を向上させる
- 2 現代を生きるために必要な学ぶ力・心・姿勢を育成する
- 3 クロムブック・タブレットを使用する授業を充実させる
英検、GTECスコアのグレードアップ



C

- 1 モチベーション・マネージメントに基づいた対話と振り返りを
FF（フィードフォワード）シートを用いて行う
- 2 教員・保護者・生徒にアンケートを実施する
- 3 教員・保護者・生徒にアンケートを実施する



A

- 1～3の結果を踏まえて
- 1 「できなかった」で終わるのではなく、「どうしたらできるよ
うになるか」「何が必要か」を考え実行する
 - 2 学ぶ力・心・姿勢の育成につながる具体策を更に検討し実行
する
 - 3 ICT活用に向けた教員の研修会を行い、授業に反映させる
英検、GTECスコアのグレードアップの具体策を検討し実行
する